



浜松ユネスコ協会

# UNESCO HAMAMATSU

## ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

# No.167

## 2017.3.15

発行：浜松ユネスコ協会  
 発行人：会長 小島逞壯  
 TEL(053)463-0458  
 FAX(053)463-0458  
 編集(広報委員会)阿部行俊

### 第7回未来遺産「私のまちのたからもの」展 表彰式 2017.1.15

# 未来に伝えたい ふるさとの遺産

浜松市・湖西市の小学4年生～中学3年生から1020点の応募 入賞185点



## 応募作品に感銘 たくさんの立派な作品ありがとう。

会長挨拶 小島逞壯

浜松市や湖西市には素晴らしい自然や文化や歴史があることが分かったことでしょう。これこそ、私たちの祖先が苦難の末、残してくれた血の通った尊い未来遺産なのです。未来に生きる皆さんには、過去の教訓に溢れた、こうした地域学習をさらに進めていただきたいと思います。

この身近な未来遺産は、この地に生きた数限りない人たちのメッセージでもあります。メッセージは語りかけています。郷土に愛を、そして、自分に誇りを。このメッセージを胸に抱いて、皆さんの、今後ますますのご活躍をお祈りします。(要旨抜粋)

## 浜松市長賞「緑のトンネルをぬけて」

浜松市立佐鳴台中学校2年 三枝黄穂路さん



この場所は、頭上から木漏れ日が差し、影と光が私の体全体を彩ります。道の向こう側は見えませんが、横に視線を移すと木々の隙間からぼんやりと佐鳴湖が見え、いつものようにウォーキングや犬の散歩する人がいます。私は、この道を「桜の木のトンネル」と呼んでいます。

春になると桜の花でピンク色、夏になると緑のカーテンに覆われ、秋は紅葉で黄色や赤色に染まります。冬のトンネルは幹と枝だけになり、頭上には空に刺繍をしたような光景が広がります。私は夏の緑眩しいトンネルが好きです。ここは、涼しく爽やかな風が吹いています。また、緑のトンネルを抜ける時の木漏れ日や影、木々の間からぼんやりと見える佐鳴湖。どれも幻想的で時を忘れ、我を忘れて眺めてしまいます。

身近にあるものは、普段の私たちの生活を彩ってくれたり、細やかな幸せに気付かせてくれたりします。

(受賞者代表挨拶より抜粋)

受賞作品 全掲載  
 浜松ユネスコ協会

<http://www.unesco.or.jp/hamamatsu/>



## ～来賓挨拶～

### 浜松市長（代理 浜松市副市長 鈴木伸幸氏）

浜松市長賞の2点については、共感するところがありました。一つは緑のトンネルです。私も緑のトンネルを四季折々の変化を感じながらくぐって来ました。春の桜から夏に青葉、秋には紅葉と四季折々の状況を嬉しく楽しく感じました。次に屋台です。私が住んでいる地域では、子供たちに歴史と伝統のある浜松まつりで屋台の引き回しや囃子に参加させたいという熱い思いがあり、御殿屋台を作りました。

小中学生が地域に着目して自然や文化について考え、まちのたからものとして発掘し、引き継いでいくことは重要です。それは魅力ある豊かな地域作りにつながります。浜松市も行政として、こうした活動をしっかり支援していきたいと思えます。（要旨抜粋）



### 静岡県教育長 木苗直秀氏

みなさんが表現したたからものは、ひとときわ輝き郷土に対する強い思いが伝わってきました。地域の文化や自然を深く見つめることができたみなさんが、社会の一員として、未来を切り拓き、活躍されること期待しています。大人と子供が力を合わせて思いを描いた未来遺産とともに100年後まで引き継いでいきましょう。

このたからもの展は、学校や商工会議所など地域社会が一体となって子供を育む活動として定着しています。本県では、有徳の人の育成という基本目標を掲げ、社会総掛かりで取り組んでいます。本作品展は、子供たちが社会に関わり、誇りをもって成長していくことを願い開催されており、有徳の人の育成につながるものです。（要旨抜粋）



### 浜松市教育長 花井和徳氏

皆さんは素晴らしい感性をもっています。その心をさらに磨いてください。浜松市・湖西市には、素晴らしい「人・もの・こと」がたくさんあります。是非、この受賞をきっかけにももの見方である「視点」ともう少し広げる「視野」の2つを磨いてほしいと思います。そのためには自分以外の他の人から学ぶということがとても大切だと思います。ギャラリーには他の友達の素晴らしい作品が展示されています。作品をたくさんみることによって、自分の見る幅がひろがります。皆さんのいいものを感じる心を深めていってください。地域のたからものを大切にして、この浜松・湖西を好きになり、将来もここで自分らしさを大切にして活躍する大人になってほしいと思います。（要旨抜粋）



### 浜松商工会議所会頭（代理 専務理事 小杉和弘氏）

みなさん一人一人顔が異なるように心で大切に思うことも人それぞれです。それが、社会の多様性につながり、世の中を面白くさせる源泉になっていると思います。皆さんの作品は個性に溢れていますが、どの作品からも共通してこの町が大好きだという強い思いが感じます。私も地域住民の一人として、未来を担うみなさんのまちを愛する心に触れ、とても頼もしく、うれしく感じます。このまちにとっては、皆さん一人一人が、夢と無限の可能性を秘めたかけがえのないたからものです。これからも皆さんの力で、浜松市そして湖西市を素敵な夢に溢れた素晴らしいまちにしていってください。（要旨抜粋）



写真左 浜松市長賞  
三枝黄穂路さん  
佐鳴台中2年  
加藤菜々子さん  
笠井小5年

写真右 静岡県教育長賞  
柴田紗希さん  
浜松南部中3年



# 第18回 浜松ユネスコ山本自然科学賞 表彰式

2017. 1.28

会長挨拶 小島逞壯



70年程前、第二次世界大戦で世界は破壊されました。世界大戦も終わろうとしていた時、決定的な事態が日本で起こりました。原子爆弾というアメリカが作った人類史上初の核兵器が日本の広島、長崎に落とされました。世界は改めて、平和における科学の脅威を認識したのです。そして機関名に科学のSを入れ、ユネスコが誕生したのでした。武器ではなく、教育、科学、文化をとおして世界の平和を作っていこうというのが、ユネスコ精神の本質なのです。ユネスコ山本自然科学賞は、この浜松にしかない誇りある表彰です。

ユネスコの平和運動を推進された医師の故山本正俊氏が、科学を通して平和に貢献していく青少年を育てるために、資産を投じ基金を作られました。山本氏は平和主義者で崇高な方でした。本日受賞される皆さんは、このユネスコ山本自然科学賞の成り立ちと山本氏の高い理想を、胸に刻んで今後ご精進されますことをお願いして挨拶と致します。(要旨抜粋)

## ～来賓挨拶～

衆議院議員 塩谷 立氏 (代理 青島 大氏)

1948年にスタートした浜松ユネスコ協会も70年余りがたち、数々の実績を積み重ねて参りました。なかでも、科学教室を通じて多くの子どもたちに科学する心を灯し続け、ユネスコ協会の主意である平和への思いや故郷や国の誇りになる物を大切にする心がはぐくまれたことは、関係各位のご尽力の賜物と、深甚なる敬意を表します。(要旨抜粋)



浜松市教育長 花井和徳氏

長い年月をかけて、研究を続けてきたことが、本日正賞受賞という輝かしい成果となりました。単に研究を継続しただけでは、正賞を受賞することはできないことだと思います。そこには、前年までの積み重ねを糧としながら、さらにその先へいく、弛まぬ自己研鑽の実践があったからだろうと考えます。本日の受賞を機にこれまで研究してきたテーマをさらに極めたり、あるいはこの体験を大きな糧として新たな課題に挑戦したりしていただきたい



と思います。研究を続けるうちには困難に遭遇することがあるかと思いますが、直虎のように粘り強く取り組んで一回りも二回りの大きな人間に成長してください。そして、自然科学への興味関心を一層高めていただきたいと思います。(要旨抜粋)

(要旨抜粋)



前列左から  
寺田さん、矢作さん、  
山本和子氏、瀬下さん、  
浜松北高 (大谷さん、宮本さん)

## 小学校の部 正賞

- ・ 浜松市立気賀小学校 6年 瀬下うたさん

「草ぼうぼうの生き物村PART4 ～外来種を全部取り除いて在来種の庭にできるのか?～  
 <外来種実験 再チャレンジ編>

- ・ 浜松市立蒲小学校 6年 矢作太志さん

「天竜川の石の研究パート4 ～天竜川がつくった地形について～」

## 中学校の部 正賞

- ・ 浜松市立八幡中学校 3年 寺田夏美

「街路樹の研究VII ～街路樹に集まるムクドリの就餌行動を探るパート3～」

## 高等学校の部 正賞

- ・ 静岡県立浜松北高等学校 物理化学部化学班 大谷祐人さん他6名

「鉛蓄電池の研究」

※ 鉛蓄電池について先輩から後輩へと受け継がれ、4年目となる継続研究です。

歴代受賞者及び受賞理由は、浜松ユネスコ協会

(<http://www.unesco.or.jp/hamamatsu/>) に掲載

## 講 評 ～ 子供自身の「追究心」を育てる ～

浜松ユネスコ協会副会長・浜松科学館館長 安藤隆敏

山本自然科学賞の選考基準は、平易にいうと、「学ぶ楽しさや充実感を実感できているか」です。

今、理科自由研究を進めていくには、ご家庭の理解や協力が不可欠で、さらに様々な支援の場や指導を受ける機会もあります。それ自体は大変に良いことですが、既存の科学の結論ありきとなり、大人の科学論理に安易に合わせてしまうことが問題であると感じました。

つまり、実験のサンプル数が少なくても、大人の科学理論にあった方向に結論を急いでしまったり、結論への近道をたどるために子供には無理な発想の研究計画を進めて背伸びをさせたりという例があります。子供自身の「追究心」を育てるという視点が忘れられていると思います。

「科学の研究」ということを考えたとき、頭に浮かぶのは、2015年ノーベル賞、医学生理学賞を受賞した大村智・北里大学特別栄誉教授の言葉です。それは、「人間が抱える課題の答えは全て、自然の中にある。」という言葉です。

これは、自然の事物・現象に対して畏敬の念(おそれ、敬う心)を持つこと、人間第一主義ではない謙虚さを持つことがなければ、迫ることはできません。

受賞された皆さんが、今後の生活の中でも、これまで培ってきた「科学する力」をますます発揮されることを期待します。



貴重な自然を  
 次の世代に残しましょう。

山本和子



印刷のエキスパート

株式会社開明堂

TEL (053) 471-6231 (代) FAX 473-0778



2016年度 ユネスコ科学教室

第7回 <宇宙への挑戦> 神秘的な星の世界をのぞこう

12月17日(土)・18日(日) 浜松市かわな野外活動センター



☆☆快晴の空 教室生88名、  
家族39名 満点の星を満喫☆☆

天体教室では、望遠鏡を使って、M45(すばる)、M42(オリオン大星雲)などを観察しました。また、全天を肉眼で観察し、カシオペア座を手掛かりに北極星を見付けたり、冬のダイヤモンドと呼ばれる6つの一等星を探したりしました。天候に恵まれ、街中では見ることのできない星の輝きに感動しました。

(喜澤俊輔)

第8回 <電波の不思議> ラジオ作り

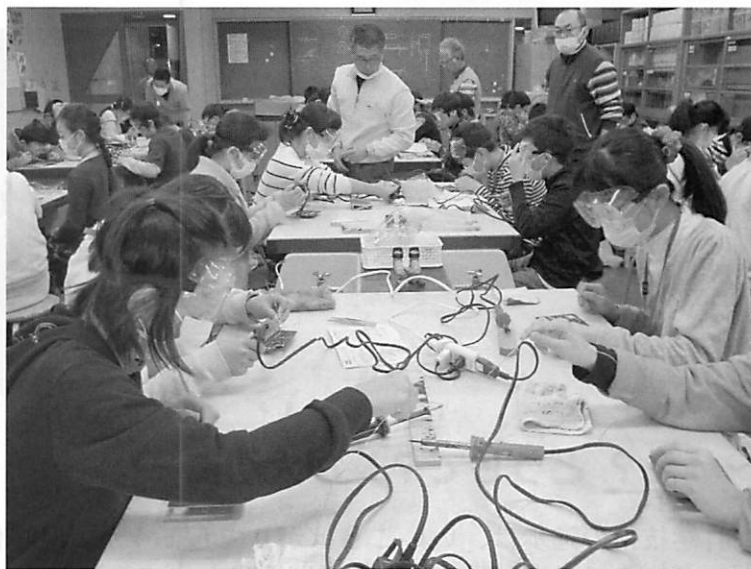
1月28日(土) 浜松科学館

☆☆子供たちの真剣な顔が笑顔へ☆☆

私が子供の頃は、目覚まし時計やラジカセなど、身近にある物をやたらと分解していました。こうした経験から物の仕組みを自然に学んでいたのだと思います。

今の子供たちは、「作る」「直す」という経験が少なくなっています。科学教室の多くの子供たちは、ハンダを使った電子工作は初めてです。今後、経験することがないかもしれません。私は、以前より子供たちの手先が不器用になっている気がしています。

それでも、子供たちは、ものづくりが大好きです。慣れないハンダごてやラジオペンチを使っているときの真剣な表情やラジオから音が聞こえたときのうれしそうな笑顔からは、ものづくりの魅力を感じさせます。こうした子供たちの意欲や興味、関心を大切にしながら、これからも科学の不思議さや自然の素晴らしさを一緒に体験していきたいと思います。(石塚雅人)



にれとうほう  
榎陶房  
|||||  
浜松市南区瓜内町860-1  
TEL 080-3069-0240

内科・消化器科  
西脇医院 院長 西脇雅子  
中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

## 第9回 <記念樹を植えよう>

2月25日(土) 浜松科学館

はじめに、木の実の種類や発芽の様子を学び、その後に自分が植える木の実を選びます。コナラ、ミズナラ、スタジイ、ツブラジイなど16種。これらは、スタッフが夏の終わり頃から県内の各地を回り採集して、冷蔵保存しておいたものです。スタッフの蔭の努力が不可欠な活動なのです。

「4年前に植えたトチノキから芽が出て、50センチになりました。」「去年のクルミが20センチくらいに育っています。」こんな話を聞くと、本当にうれしくなります。(藤野ひろ美)



### 閉講式・ユネスコと私

#### ～科学とは人々に幸せや平和をつくっていくもの～

[記念樹を植えよう]引き続き、2016年度ユネスコ科学教室の閉講式が行われました。

修了証書授与に続き、小畠会長より教室生に向けて「科学とは、人々に幸せや平和をつくっていくものです。決して争いや戦争などをつくっていくものではありません。そのことを胸に刻みこれからも勉強に励んでください。」と、励ましの言葉が贈られました。

続いて、生涯学習課藤田健次課長補佐からは「これからの未来を担う皆さんの世界の人々の平和を願う思いが、今後さらに高まっていくことを期待しています。」と挨拶をいただきました。

また、この日、鎌倉ユネスコ協会科学環境委員会の5名が浜松の科学教室の活動を視察に来ており、30年に渡る活動とその理念に対し賞賛の言葉をいただきました。(山内登志弘)



藤田健次課長補佐



#### ～『え? どうして?』が大切に～

浜松ユネスコ協会副会長・浜松科学館長  
講話 安藤隆敏

科学技術の進歩は、いいことばかりでしょうか。温暖化、生態系の破壊、大気汚染など地球環境問題が起きて解決が難しい大きな問題になっています。

科学技術の進歩について、2016年ノーベル生理学・医学賞を受賞した大隅良典氏は、「本当に役に立つことは10年後かも20年後かも100年後かもしれない。社会が将来を見据えて、科学を1つの文化として認めてくれるような社会になることを強く願っています。」と話しています。



また、小学生の皆さんに次のようなメッセージが送られています。「分かっているような気分になっているけれども、世の中には、実をいうと何も分かっていないということがたくさんある……生命現象には特にそういうことがあるので、『え? どうして?』ということをとっても大事にする人になってほしい。」と。

これまで、30年間「ユネスコ科学教室」を行ってきた私たちスタッフの思いとぴったり重なっています。(要旨抜粋)

## ユネスコ生涯学習セミナー 歴史探訪

## ～旧東海道ゆかりの地『中野町』を歩こう～

12月3日(土)

## ○午前の部 フィールドワーク

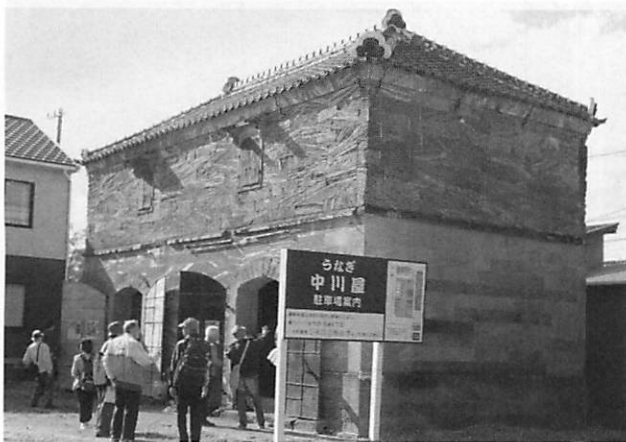
講師 堀内哲治氏

自治会館を出発し天竜川へ向かいました。旧国道沿いの橋のたもとにある「寄ってきさせえ中野町」には、詳しい説明板がありました。

磐田方面から来た人が橋を渡り終えると、最初に目にするのはエノキの木です。この木は国道の歩道上にあり、伐採の危機があったが保存されることとなり、今日に至っています。

この辺りから昔の東海道を歩く旅の始まりです。川沿いを歩くと、六所神社に着きました。六所神社には、碑や道しるべがありました。

ここから西に向かい遠州銀行跡を過ぎると伊豆石のお蔵がありました。この中野町には、立派な伊豆石のお蔵がいくつか存在しています。これは、明治から大正にかけて、天竜川から下ってきた木材の中継地として栄えた名残です。中野町の華やかだった歴史を感じずには



いられません。こ

この日はお蔵の中の見学もしました。木材で栄えた当時の写真や木橋等が展示してありました。

最後に金原明善館へ行きました。明善についてのDVDを鑑賞した後、館内を見学しました。展示されている見事な掛け軸や書籍などは、明善が年を重ねてからの執筆と聞き、感心させられました。また、刑務所で服役した人々を進んで雇った業績も初めて知りました。中野町は確かに、今も江戸や明治の風情を残した古き佳き街でした。



中ノ町地区自治会館 → 寄ってきさせえ中野町（橋のすぐ隣、国道の間：公園）→ 国道歩道に一本のエノキ → 川沿いに南下 → 六所神社（明治天皇玉座、船橋之記の碑、船橋跡、木橋跡）→ 遠州銀行跡 → まっし蔵（伊豆石） → 東橋跡 → 東海道松並木跡 → 金原明善生家 → 中ノ町地区自治会館

## ○午後の部 講義「中野町の歴史」 講師 高橋長生氏

東海道中膝栗毛には「江戸へも六十里、京都へも六十里にて、ふりわけの処なれば中の町といえるよし」と謳われています。また、安藤広重の見附には対岸が載っています。かつては、池田荘と呼ばれた地域で京都の松尾大社の立券状（1171）にも名があります。このように昔の地図を参考にしながら、中野町の歴史を振り返ったり、中野町を考える会の活動等を聞いたりしながら、中野町の歴史を学ぶことができました。

今回、中野町のフィールドワーク及び講演では「中野町を考える会」の会員の御協力で実現しました。中野町をこよなく愛する地元の人々の熱意が、至る所で伝わって参りました。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。（岡田義生）





# 冬の自然 in 佐鳴湖

2月4日(土)

## ～ カワセミにうっとり ～

好天のもと、冬の野鳥を探す公園探検がスタートしました。園内ではヤマガラ、シジュウカラ、ハシボソガラス、ハシブトガラスを、湖畔ではカワウ、マガモ、カンムリカイツブリ、ダイサギ、オオバン、ミサゴなどを観察しました。

特に印象深かったのは、水路でじっと魚を狙っていたカワセミでした。ほんの2、3m先で全員が数分以上にもわたって見ることができたことでした。奇跡のような出会い。誰もがコバルトブルーに輝く背中を時間が経つのを忘れて見惚れてしまいました。そしてカワセミの語源の“背美(セミ)”、や“青土(ソニ)”など諸説や、漢字での宝石の翡翠(ひすい)の話もあり、カワセミは太古から人々を魅了してきたことも知りました。鳥たちの姿や名前を通して、文化や歴史にも思いを馳せた満足な一日でした。(池内伸彰)



### お詫び

特集 秋山俊雄氏「沖縄人とアメリカンインディアンが共有する悲劇 ～外来勢力による征服によって持ち込まれた生活習慣病～」を165号・166号と連載しました。本号でも引き続き掲載予定でしたが、紙面の都合で掲載が困難になってしまいました。秋山氏の論文は、浜松ユネスコ協会のホームページに掲載いたしました。是非ご覧頂きますようお願い申し上げます。

<http://www.unesco.or.jp/hamamatsu/akiyama/akiyama.html>

## あなたも一緒に 会員募集

問い合わせ・申し込み  
事務局 三輪 宜弘  
■ 053-425-8643

## 会員動向

会員数 (2017.2.7現在)

賛助	法人	維持	理事
29	1	6	45
普通	学生	合計	
48	0	129	



※再生紙を使用しています。